

下野市学校図書館活用研究

1 はじめに

「下野市学校教育計画 2『豊かな心』を育む教育の推進

○視点（2）読書活動の推進

○努力目標・努力点

①学校図書館の整備・充実を図る。

ア 司書教諭等を中心に全職員が協力して読書環境の整備、学校図書館の活性化に努める。

イ 市の図書館との連携・協力を密にする。

ウ 図書館システム活用による貸出・返却作業や蔵書確認を正確かつ効率的に行えるよう担当教員と図書支援員が連携した体制をつくる。

②読書意欲をもたせ、読書の習慣の形成を図る。

ア 学校での一斉読書活動の時間を定期的に日課に位置付け、読書の習慣化に努める。

イ 教員や地域ボランティアによる読み聞かせや、委員会活動の充実などにより、本に親しませ、読書の楽しさを体験させる。

ウ 家族で読んだ本について話し合ったり、好きな本を紹介し合ったりする「家読」を奨励する。

児童生徒が読書の記録をすることにより、読書体験を振り返るよい機会となり読書の習慣化を図ることができるのではないかと考え、学年に応じた「読書記録」用紙を作成し、実践した。小学校・中学校生活を通して継続した「読書記録」を作成することは、生涯を通して読書に親しむ態度の育成に繋がると考えられる。この実践を通して、上記の目標②読書意欲をもたせ、読書の習慣の形成を図りたい。

2 実施内容と方法

実施内容	方 法
読書記録	<ul style="list-style-type: none">・本を読んで自分の心に残った場面を視写する。 ※読書に親しむことが目的のため、原稿用紙の使い方等による表記の仕方の指導はしない。・発達段階に合わせて字数を設定する。 ※低学年は絵の方が表現しやすい児童も多いため、記録用紙に絵が描ける欄も設ける。・読書の時間や宿題で活用する。

3 成果と課題

・成果

○記録に残すという活動を取り入れたことで、何度も繰り返して読むことができた。自分が読んだ本のどこが良かったのかを考えることで、もう一度思い出したり、部分的に読み直したりするなど、話を自分の中で思い返しているような姿が見られた。

○記録に残すことで、さらに好きな本として愛着をもつことができた。また、記入日を書き、ファイリングし、記録を振り返ることで、読書の達成感や親しみをもつことができた。

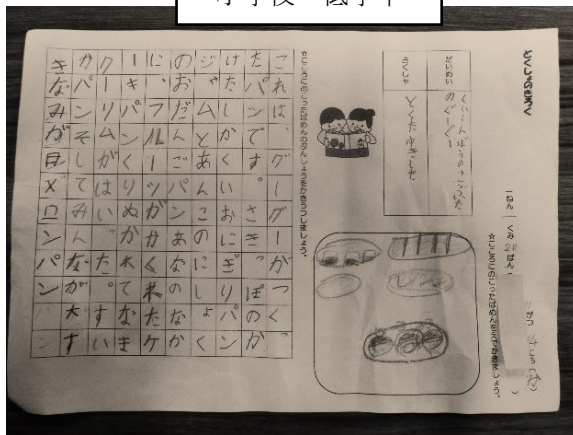
○保護者のサイン欄を入れたことにより、本について家で話題にする機会となり、家読や読書活動を推進することにつながった。

・課題

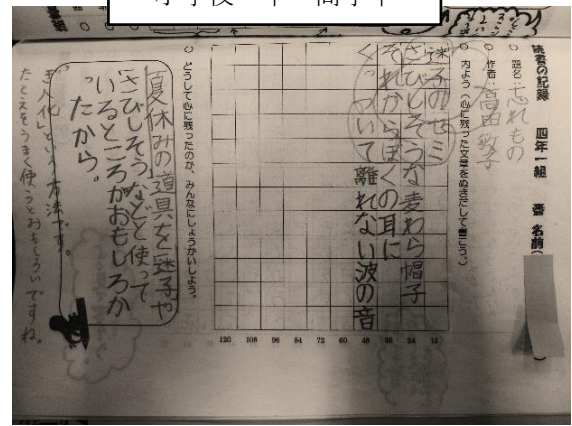
- 低学年では、気に入った文章を視写することが難しかった。読書に親しむことが一番の目的なので、視写をするときは原稿用紙の使い方の指導に重きを置かないよう配慮する。
- 継続的に取り組めるように工夫する必要がある。朝の読書の時間を活用するなどして、読書をする時間や読書記録を残す時間を確保できるようにしたい。また、月1冊程度、読書記録をさせたい。
- 全校体制で一斉に取り組む、読書記録をファイリングするなどして、9年間継続して取り組めるようにする必要がある。
- 選書の仕方を工夫させ、良書に親しませたい。時には、必読図書の中から選定するなど働きかけが必要である。市立図書館「市のおすすめの図書ガイド」を市立図書館から貸し出してもらうなど、連携していく必要がある。

【参考 実践例】

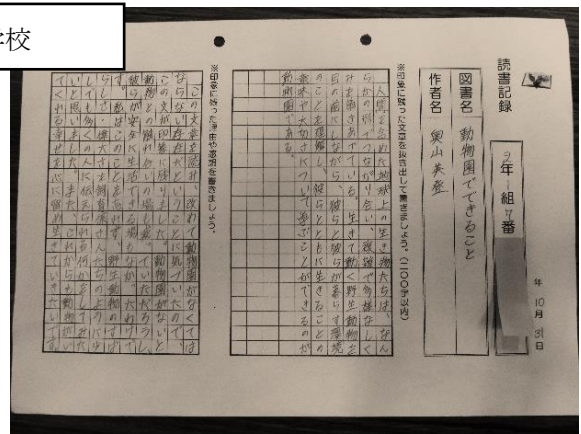
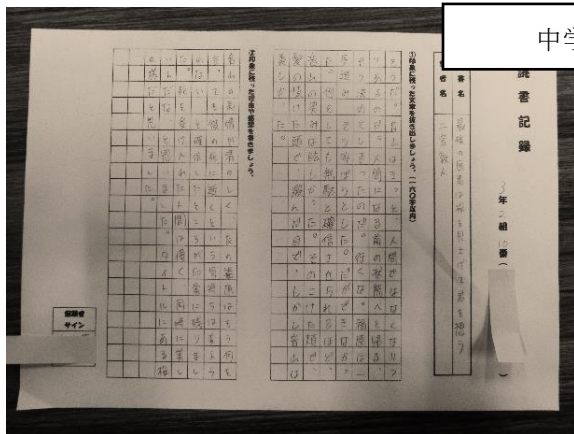
小学校 低学年



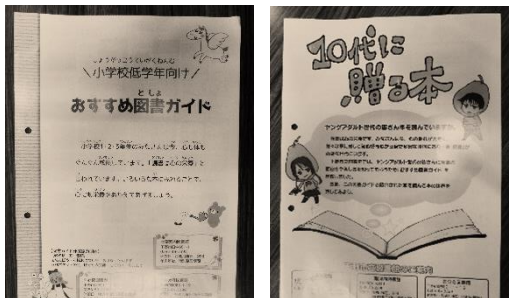
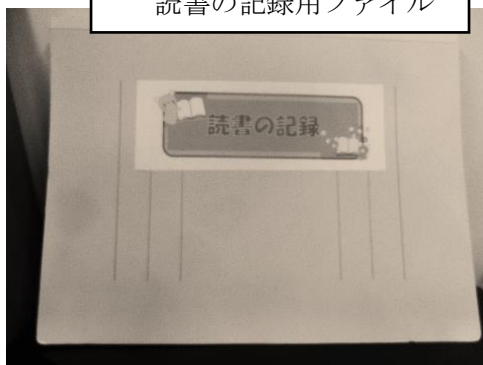
小学校 中～高学年



中学校



読書の記録用ファイル



下野市立図書館から発行されているおすすめ本ガイド

